

保育者養成における「図画工作科指導の基本的条件」

— 絵のテーマによる指導の違い —

斎 藤 久 六*

Fundamental Conditions in Teaching Drawing and Manual Arts
for Nursery School Teachers

— Differences in Teaching According to Each Theme of Pictures —

Kyuroku Saito

子どもの絵の表現でテーマのねらいによって指導の仕方が大きく異なる。

観察画はモチーフにとらわれ感情や個性が抑圧されるので、主体的にのびのびと観察して写生できるように指導助言をし、知的認識を深めるというねらいが達成されるよう配慮するとよい。

想像画は作者の思いが強調され、心に残った印象を感動的に表現することがねらいなので、写実にこだわらず、感動を思い切って表現できるようにするとよい。

空想画は現実にとらわれない形や色そしてストーリーに触発され、イメージを広げ、感性を豊かにすることがねらいであるから、自由空間に幅広い想像力で個性的な表現ができるような支援をするとよい。

構成画はデザイン感覚を生かした模様や行為・動きなどを感性を豊かにすることをねらいとするので、リズムやバランス、ハーモニーなど造形的要素を感じ、気づくような指導助言をしていくことが必要である。

各テーマによるねらいを達成するには、表現内容に相応しい環境や材料を準備し、指導助言をすることが大切である。

以上のことを実証するため、5歳児の絵を模写した保育科学生作品と感想を実践資料として提示した。学生が子どもの絵を模写することで、見ただけでは気がつかない子どもの思いを発見し、共感していることが感想文から読み取ることができる。

キーワード 絵画、表現、テーマ、ねらい、感性、模写

I はじめに

絵を描くことは実に楽しい。夢や想像が広がり、創造的で感性豊かな生活をする事ができるからである。しかし、一般に絵を描くことに自信がなく、鑑賞は好きだけど、表現は嫌いだと思い込んでいる人が意外に多い。

保育を目指す学生に絵は好きかと質問すると、半数以上の学生が絵を描くのは嫌いだと答える。そして嫌いになった原因は幼稚園や小学校または家庭で適切な環境と指導を受けなかった結果と思われる。さらに絵が嫌いな学生になぜ嫌いかと質問した場合、大半は絵が下手で自信がなく描けないからと答える。

一般に絵を描く場合どのように描きたいのか、ねらいが明確でないまま、写真のようにリア

* 女子短期大学部 保育科

ルに描くことを安易に求めてしまい、実物を目の前に置かないで、記憶に頼って描こうとし、挫折してしまう。絵を描く時、写真のように表現する必要はなく、思いを自由にそして感性豊かに表現することを目標にするならば絵を描くことが楽しくなるはずだ。

幼稚園、小学校へ行くと、行事の絵を描いてる所によく出会う。絵画のタイトルは決まってもテーマや内容・ねらいが明確にされないまま描画活動に入り、指導助言している。例えば、「運動会の絵」というタイトルで絵を描くのに、鉛筆などで詳しく下描きをすることがある。走る足はどうなっていたのか、踊った時の服装はどんな形だったかななど、リアルな描写を要求するような声がけになってしまうことが多い。走ってる姿や踊っている服装を実際に目の前に置かないで記憶だけを頼って写实的表現をするのは専門家でも非常に難しい。写实的表現を無理に要求するような声かけをしたなら、子どもは絵を描くことを苦しく感じ、自信をなくして嫌いになってしまうだろう。

それではテーマやそのねらいの違いによってどのような環境をつくり、指導助言をしたらいいかテーマごとに考察し、最後に実験的作品資料を提示検証してみよう。

Ⅱ テーマとねらい

出会った感動や心の中の思いを感性豊かに表現するにはどうしたらいいのだろう。テーマごとのねらいからその指導法を探るため、幼稚園・小学校などでよくとりあげられる絵のテーマの一部を整理して以下のようにまとめた。

観察画－静物画・風景画・人物画など

想像画－想定画・体験画・印象画・漫画など

空想画－遊び画・幻想画・心象画・物語画など

構成画－抽象画・装飾画・デザイン画など

観察画とは静物、風景、生きた人物や動物など、実際に描く対象を目の前において、よく見て描くことで、デッサン（素描）とか写生（描写）などである。観察表現の場合、感情や個性がやや押さえられるが、細部まで見た通り描き、自然の光や陰影、空間や形体などものの本質を見極め、観察力や描写力を養い知的認識を深めることがねらいである。

想像画は作者が体験したことや想定したこと、印象に残った思いを強調して感動的に表現することをねらいとして描かれたもので、写实的表現でなくていいのである。

空想画はより個性的で自由な空間に、形や色から触発されてイメージを広げ、現実にとらわれず新しい空間を創造することをねらいとして描かれたものである。

構成画は造形的リズムやバランス、ハーモニーなど造形的美的要素を構成し、デザイン感覚を生かした模様表現や行為・動きを感じさせる抽象表現で感性を豊かにすることなどをねらいとしたものである。以下、テーマごとに具体的展開を述べてみよう。

Ⅲ テーマと内容

(1) 観察画

①静物画

静物画はモチーフの形体や色調から空間や材質に発見し、構図や存在感を表現したものである。子どもが実際に写生をしている現場で指導の要点を述べてみよう。まず、採光や配置に気を配り、全体の構図に注意しながら細部までしっかり見て、触った感じや色合などにも配慮ができるような声がけをする。その後、緻密に絵が描けるように、形や色がどのようなになっているかを押しつけることなく自ら気づくことができるように問いかける。鉛筆や細いペンなどでしっかり細部まで下描きし、その後、実際に観察した色や形の描き方などを工夫しながら絵具などでものの有り様を表現し、静物画のねらいである観察力や描写力が養われ知的認識が深められるのである。

②風景画

子どもは、5歳の段階に入ると図式的な様式化が目立ち、人や家、木、花、太陽などの描き方がいつも同じ風景画になりマンネリ化する傾向がある。普通の子どもの場合、誰でも通る段階なのだが、しかし、このまま放っておくと固定化し、生き生きとした表現が失われてしまう。このマンネリ化を打破するには実際の風景をしっかり観察し、写生することで現実の形や色を認識し、表現の幅を広げることができるような声がけや指導が必要なのである。この場合、押しつけにならないように注意し、実物に興味・関心が向くようにすることが大切である。表現方法としては楽しく細部まで描けるように、画用紙に鉛筆とかペンを使用して下描きし、その上から水彩絵の具やパス類で彩色するとよい。

③人物画

人物画は、生き生きとした運動感や表情などを表現することをねらいとして、指導助言するとよい。しかし、堅苦しい畏縮した表現にならないように、実物の色の美しさや面白さに気づく環境をつくる。そして、子ども自ら遊び感覚で意欲的に観察し、結果主義ではなく、楽しく、のびのびと発見しながら表現活動ができるように配慮することが大切である。例えば、子どもが入る大きさの画用紙にお友達を寝かせ、身体の各々の部分の特徴をよく見て描くとか、また、いろいろなポーズをじっくり見て気楽にクロッキーをしてみるとか、自由に人の形が描けるような環境に配慮するとよい。

描画材としては鉛筆やクレヨン・コンテ・色鉛筆・水彩絵具など、素描や写生に相応しい描画材を使うことで目標が達成しやすくなる。

(2) 想像画

①想定画

子どもの描画活動でよくとりあげられるテーマは、遠足や運動会などの行事の前に設定される想定画である。例えば、動物園遠足の想定画を設定する場合は、事前にあらかじめ動物園の遠足に期待を持たせるため、動物に関する絵本や図鑑などを見せて動物園のイメージを広げるような導入をし、行って見たいという思いをそそるように進めるとよい。「それは大きいかな」「何を食べているのだろうか」と想像を広げるような声がけをし。細かいリアルな表現を要求するような声がけはさける。経験の少ない子どもに写実的表現を求めたら、絵は難しいものと感

じて、嫌いになるのは自明の事である。

多種多様の描画材を用意しておき、何でも自由に使って描ける環境が大切である。

②体験画

動物園に行った後に設定した場合は体験画であり、楽しかったことや心に残った思いを強調して生き生きと表現するのが目標なので。この場合も子どもに写実的表現を求めるべきではない。しかし、指導者は助言の言葉が見つからず、つい鼻はどんな形、耳は、足はなどと細部のリアルな表現を求める安易な声がけになってしまいがちである。体験画は体験した印象や驚き、感情がともなった思いを感動的に表現することがねらいであり、耳、鼻などの形は感動した思いを素直に表現するのであれば、写実的でなくともよいのである。そこが(1)の観察画と大きく異なるところであり、助言の仕方も全く違ってくる。「象さんは堂々と大きく描けてるね」とか「お猿さん楽しそうで面白いね」とか印象や思いを大切にしたい声かけをしたいものである。

③印象画

運動会を経験した後に設定された絵のテーマは印象画であり、体験画的指導を行えば抵抗無く表現ができる。例えば、駆けっこしている足を長く強調して描いても、走っている足が印象に残ったと解釈できるので、むしろ強調した方が思いや感動が表現されるのである。テーマが印象画の時は最初から形や色にこだわらず、心に残った感情を強調し、感動的に表現することを伝えておけば、子どもはのびのび描き、絵を描く楽しさを覚え、絵の嫌いな大人にならないであろう。

体験画や印象画の描画材は細部まで描けないものでよく、鉛筆などで下描きなどせず、直接クレヨンや水彩絵具を使用して、画用紙に体験した感動や印象に残ったことを失敗を恐れず大胆に表現すれば、ねらいは達成されるのである。失敗した絵はむしろ個性的で楽しく訴えかけてくることが多い。

④漫画

漫画は、写実的表現を極端に避けて、作者の思いを強調し、輪郭線だけで描くことが主である。できるだけ省略化、単純化して、プロポーションや形のバランスを故意にデフォルメし、感情や状況が大袈裟に表現して、ユーモアやナンセンスを描き、見る側に笑いを提供する。子どものテレビ番組に出てくるキャラクターは2等身か3等身で、顔の表情が強調される。漫画は、現実の形ではなく、想像の世界であり、自由に思いを強調できるので、子どもは漫画が大好きなのだ。鉛筆やペンなどが線描きしやすく、描画材としてよい。

(3) 空想画

①遊び画

日常生活の中で子どもはいろいろなものや場所と直接かかわり合い、さまざまな遊びを考えだし、実に生き生きと目を輝かせている。子どもたちはごっこ遊びや見立て遊びなどの経験を通して、豊かな発想やアイデアを生み、さらに次の活動へと発展していくのがごく自然の流れである。子どもの遊びに見られる主体性、想像性、自由性、共同性などの創造的な特性を描画活動に取り入れ、ひとり一人の子どもの個性が自由に発揮される造形活動へ導き、子どもの持つ資質や能力を育てていくことが遊び画のねらいである。一例として色画用紙を自由に切った多様な形から1枚とり出し、何に見えるか、見立て遊びをしながら、目鼻をつけたり、しっぽを組み合わせたりして空想の動物を作り、形にして画用紙に次々と貼り、見立て遊びを表現

活動に発展させていくことで、感性や表現力などが豊かになっていくのである。ちなみに平成10年改訂の教育課程学習指導要領の中で「材料をもとにした楽しい造形活動（造形遊び）」の内容の占める位置が大きくなった。

②幻想画

子どもにとって、未知の話を知ったり、未経験の多様な素材の表現に触れたりすると子どもは、好奇心や冒険心など刺激的な世界に興味と意欲が起きてくる。

例えば、デカルコマニーの場合新聞紙の上にあらかじめ二つ折りした紙を開いて置き、左右にどろどろに溶いた複数の色の絵具をたっぷり塗り、乾かないうちに新聞紙ごと紙を閉じて上から軽く擦る。ゆっくり紙を開くと、絵具が混ざったり、流れたり、広がったりして面白い偶然の色や形が紙の上に現れる。つくり出された未知の空間と出会い、イメージが喚起され、右脳の働きが促される。デカルコマニーの不思議な空間を見て触発され、子どもの心の中でまだ意識されていない潜在的想像や夢の新しい世界が広がり、意欲が湧き、空想をあたかも現実のように見立てて表現する楽しさを味わう。そして、「これ不思議な形してるね」とか「何に見える」など指導者は右脳の刺激を促すような声がけをすることで、子ども自ら不思議な世界に触発され、感性豊かで創造的な力を働かせ、可能性を広げ、楽しい絵が表現されるのである。

③心象画

子どもの絵は現実を写實的に描いた結果ではなく、心の中にあるイメージの再生である。その意味では心象画と云ってもいいだろう。子どもが描くもの、例えばチューリップにしても、木にしても、蝶も小鳥も現実の特定された花や木、昆虫、鳥ではなく過去に見て感じたイメージの表出であり、実際のものと違ってようと、線描きだけであろうと、いっこうにかまわないのである。心象画は自由画なので写實的助言や指導は全く必要なく、自由なテーマで、描く材料も好きなものを使って、自由画帳にしるしとしてメモ的に描きたいものを勝手気ままに描いていいのである。指導者は自由画から子どもの本音や欲求を読み取ることができるので、心象画を通して共感的助言や指導をすることができるので大切な表現活動なのである。

④物語画

すぐれた物語は子どもの想像力、空想力をかきたて、ところを豊かにする。物語の場面を絵で表現することによって、想像した世界がいっそう鮮明なものになり、具体的に目に見える世界をつくりあげることができる。

物語を絵にする過程において、様々な造形的表現の課題を見つけ出すことができるのである。物語の何処に感動して絵にするか、物語の内容にそったイメージを個性的にどのように表現し、主体的に絵を描くか、そのような課題をこなすには物語をよく理解できるような導入や指導が大切になってくる。物語絵は物語の説明ではないので、ひとりひとりが想像し感動した世界を絵にすることがねらいである。物語の話を知って感じた感情や雰囲気大切にすることが物語絵のねらいに近づくキーポイントである。

(4) 構成画

①抽象画

抽象画は色や形がつくり出すコントラスト（対比）やアクセント（強調）やムーヴメント（運動感）を感じ、楽しく表現し、豊かな感性が育つようにすることがねらいである。

表現方法の例としてはブローイング（吹き画）やドリッピング（たらし画）、マーブリング（流

し画)、パピオ コレ (貼り絵) などの造形活動がある。特に具象的な形にこだわらず、絵具をたらしたり、吹いたり、流したり、紙などを切ったり貼ったりして、遊びの中で偶然にできた思いもよらない形や色から楽しい造形空間が広がるような声がけをしていくとよい。

②装飾画

造形的な形や色の美しさに気づき、装飾的美的感性が高めることがねらいである。

表現方法としては、身近にあるたまねぎ、レンコン、ピーマンなどの野菜や丸めたティッシュや発泡スチロール、段ボールの切り口などに絵具やインクをつけて押すスタンピング (判押し) 遊びや半紙を折ってインクに浸して模様を作ったり (浸し染め)、さまざまな方法で装飾的な連続模様や色彩模様をつくって楽しみ、遊びから装飾的美的表現につながるよう指導助言をするとよい。

③デザイン画

形や色の構成をする遊びはデザインの美的センスが高まることをねらいとする。

例として、丸、三角、四角など幾何学的な形を組み合わせ、リズム、バランス、ハーモニーなど造形的美的要素を感じながら、個性的な色面構成を楽しく自由に表現することでデザイン感覚が養われるのである。デザイン画はポスターカラーだけでなくさまざまな表現材料を自由に使える環境と開放的な雰囲気が大切だ。

Ⅳ、まとめ

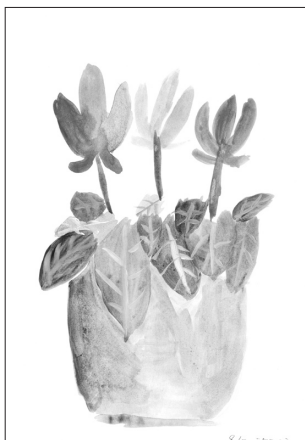
絵の表現活動は、ものに出会った感動を生き生きと感性豊かに描くことをねらいとするならば、写実的表現にこだわらず、自由にのびのび楽しく開放的な絵が描けるように配慮することが大切であり、創造的な心の奥深い思いを表現することができるよう助言・指導することがポイントである。例えば観察画であっても、ねらいは写真のように描くことではない。描く対象の有様をよく見て、色と形の自然な美しさを感じ、モチーフに出会った感動や発見を意欲的に細部まで詳しく表現し、知的認識を深めることが観察画のねらいである。また、マンネリ化を超えていく方法として、楽しく的確に観察し、写生をすることも有効な手段である。

テーマが想像画の場合は、最初から写実的表現にこだわる必要はない。心に残った楽しい思いを強調し、感じたことを自由に描くように声がけすれば、子どもは、のびのびと絵を描く楽しさを覚え、絵の嫌いな大人にならないであろう。

これまで述べてきたテーマとねらいに沿って試みた実践資料、すなわち、5歳児の絵を保育科の学生が模写した作品と感想の一部を提示しておきたい。この資料は、例えば「ハイ！ポーズ」の場合、単なる観察画ではなく、ポーズをとるお友達に出会った感動をともない、生き生きとした動きで表情豊かに表現された観察画であることを、模写した学生は子どもの絵から発見している。他の実践資料も模写しなければ気がつかない、子どもの思いを発見し、共感していることが分かる。指導者にとってテーマごとのねらいに沿った指導や助言が如何に重要であるかを模写した学生は実感し、この実践資料は実証しているように思われるが、詳しい分析については、別の機会の研究課題とする。

最後に協力してくれた尚綱学院大学の短期大学部保育科2年生の学生に感謝したい。

(保育科学生が5歳児の絵を模写した実践資料)



テーマ：観察画①静物画

タイトル：「シクラメン」

感想：1枚1枚しっかり描かれていて、よく観察されていることに気づいた。シクラメンの特徴をとらえていて、工夫が見られた。観察して描くことによって、そこからまたイメージが膨らみ、発展している感じが見られた。

研究者のコメント：観察がイメージの発展につながることを感じた点に注目したい。

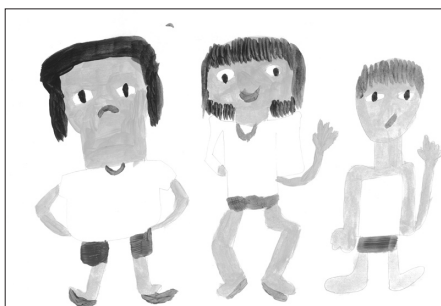


テーマ：観察画②風景画

タイトル：「夕日の中のアじさい」

感想：絵具をポンポンと押し付けるように描きました。柔らかさが出て、優しいタッチに仕上がりました。よく観察して自由に描くことで描くことの楽しさが身につくものだと感じました。

研究者のコメント：よく見ながら描くことの楽しさを感じていたところが収穫である。



テーマ：観察画③人物画

タイトル：「ハイ！ポーズ」

感想：いろいろなポーズの友だちが表情豊かによく観察して描かれ、個性が溢れていて楽しかった。

研究者のコメント：友だちの個性まで表現されていることを学生は実感していた。

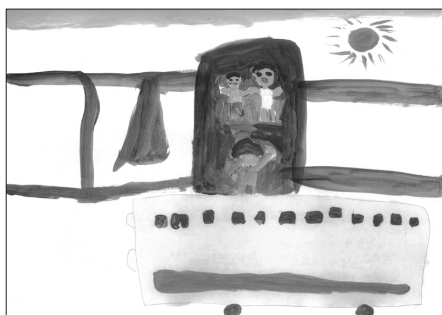


テーマ：想像画①想定画

タイトル：「ぜったいゴールをさせないぞ」

感想：リアルな姿にとらわれずに、自分が一番感動したことや楽しかった思いを表現することが大切だと感じ、そこに気をつけて描いてみました。右のゴールキーパーが「ぜったいゴールをさせないぞ!」という熱意が伝わってきました。これを描いた子どもは、存分にサッカーを楽しんだと思います。

研究者のコメント：子どもの気持ちになり切った所がいい。



テ ー マ：想像画②体験画

タイトル：「いってきまーす」

感 想：元気よくバスに乗って幼稚園にいこうとする様子が伝わってきました。

研究者のコメント：生き生きと思い切って表現されていて、ねらいを理解している。

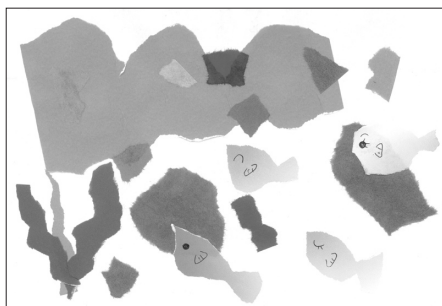


テ ー マ：想像画③印象画

タイトル：「虫とり」

感 想：虫とりを実際に体験した印象を描く時にその時の様子を思い出しながら子どもは描くと思うので、描いててわくわくすると思います。トンボをとったので、トンボを大きく描いて嬉しさや楽しさを伝えようという思いが感じられました。

研究者のコメント：子どもがトンボを描きたかったことに気づいた。



テ ー マ：空想画①遊び画

タイトル：「海の水族館」(パピオ コレ)

感 想：子どもの頃に帰って貼り絵をしてみました。魚の形を自分の思い通りに切っていると想像が広がります。子どもたちにも是非、自分独自の作品をつくってほしいと思いました。

研究者のコメント：貼り絵で見立て遊びの楽しさを学生は発見できたようだ。



テ ー マ：空想画②幻想画

タイトル：「ピノキオ」

感 想：ピノキオの物語で一番印象に残ったのが海の場面で、サメの恐さや大きさをイメージとしてしっかりとらえていると感じました。空想画を描くのはとても大変だと思うので、イメージが膨らむような助言の工夫が必要だと思いました。

研究者のコメント：空想画の模写をして、導入の大切さや難しさを感じたところは大きな収穫だ。



テーマ：空想画③物語画

タイトル：「エルマーの冒険！飛べ！」

感想：色がとても鮮やかできれいでした。一つ一つ見ると理解できないところもあるが、絵全体を見ることでどんな場面なのか直ぐ分かります。背景は思い切って塗りました。

研究者のコメント：子どもの気持ちになりきれなかったところもあった。



テーマ：構成画①抽象画

タイトル：「ドリッピング」(たらし絵)

感想：形にこだわらずに自由に表現できる構成画では、色や形のコントラストを楽しむことができる。子どもにとっても何ができるのか、この絵具はどうなるのかという期待が持てて、とても楽しい活動になると感じました。私もドリッピングをしてみても絵具がどのように流れ、他の色と混ざりどんな色になるのかと楽しくできた。

研究者のコメント：楽しんだのがいい。

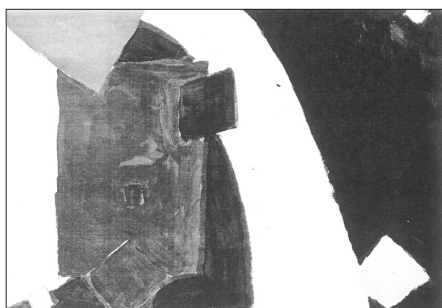


テーマ：構成画②装飾画

タイトル：「あじさい」

感想：アジサイの色を一色だけでなくいくつかの色を自らつくり描いているのに驚いた。また、花がいくつも並べられ、葉っぱを構成したところが面白い。花びらの感じがよく表現されていた。

研究者のコメント：形や色の美しさをよく感じて、描けた。



テーマ：構成画③デザイン画

タイトル：「まるとしかく」

感想：円と四角の形が生かされ、色鮮やかにできました。

研究者のコメント：色のコントラストや形の変化にリズムやバランス、動きを感じて模写できた。

〈参考文献〉

- 1) 秋山光和 他「新潮世界美術辞典」新潮社 1985
- 2) 「DRAWING ON THE RIGHT SIDE OF THE BRAIN」by Betty Edwards
B. エドワーズ 北村孝一訳「右脳で描け」エルテ出版 1994
- 3) 鈴木五郎ほか「かく・つくる②5歳児の絵画製作」ひかりのくに 1986
- 4) 金子健二 他「臨床美術」日本地域社会研究所 2003
- 6) 斎藤久六 「ひらめに・ときめきオリジナル工作 96」宝文堂 2004
- 7) 花篤實他「幼児教育法講座 造形表現（理論・実践編）三晃書房 2005
- 8) 宮脇理監修 荒井哲夫 他「図画工作科指導の研究」建帛社 2005
- 9) 羽多悦子「感性と表現」学習研究社 2005
- 10) 宮脇理監修 福田隆真 他「美術科教育の基礎知識」建帛社 2007
- 11) 「2008（平成 20）年版 幼稚園教育要領・保育所保育指針」萌文書林 2008